

寺報

龍正寺

日なた 202号

回向
供養

日
延



<令和 7年 3月>

宝龍会
護持会

2025年（令和7年）節分・星祭り祈禱会



思いを込めて南無妙法蓮華經の
お題目を唱え太鼓を叩いています



年男・年女、厄年の方は
厄払いをしました



節分の由来

季節の分かれ目、昔は立夏、立秋、立冬、それぞれの前日のことを節分と言っていましたが現在では立春（2月4日頃）の前日を節分といいます。

節分の豆まき

季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払う儀式

狂職一言

段々と春めいて来ました。本月は春のお彼岸
です。御先祖様の供養をいたしましょう。

御先祖様の供養をする事は、我々子孫の
偉せにつながります。

彼岸とは 彼の岸から此の岸といわれ、
また六波羅密という修行あり。7日間おこな
う行事です。1.布施 2.持戒行 3.忍辱行
4.精進行 5.禅定行 6.智慧行と六つ
です。これはお釈迦様の説かれたお教えで
す。私たちが善を実行しやすいように諸行万
行をまとめて下さいました。この六つの中か
ら、まず自分自身のやりやすいものを一つ選んで
やってみなさいと勧められているのです。

寒々と御先祖様の供養もお仕事もままなら
い。段々と暑たかくなると、身体も動くようにな
り、仕事も元気になる。その前に、御先祖様の
の供養をしっかりとって仕事に専念すると、

日本国では彼岸が春と秋に一週間
づつもうけられ、今日まで引き継がれて
いる大切な行事です。

当山では3月20日(木)中日彼岸法事が
ございます。御参拝下さい。

安穏な家庭、偉せぬ毎日は御先祖様
供養から、御先祖様のお慶びは私達の
の偉せにつながらり毎日が楽しく明るい
安穏な生活が作る事が出来るでしょう

合掌

南無妙法蓮華経

「海を渡った一枚のおふた」

私には四人の子供がいて、その内二人が男児であります。
長男は秀才であり大学卒業とともに就職の為に
東京勤務となり七ヶ月を迎えた昨年、アメリカの中西部
に位置するカンザス州に一年間の転属となりました。
息子は英語が堪能である故に勤務地となるのだが...
高校生の時に全国模擬共通試験に英語が500位と
なっていた。当時私は全国試験と愛知県試験と
甚だしいを以て息子に「そんな落ちるなよ! 500位でも立派じゃ
ないか!」と告げると...息子は「全国試験だよ」と
言われ愕然として息子の努力に脱帽した次第であった。
それから何年か経ち大学生の時に「僕は商社マンになりました」
と言ってきた。
大学時代に英検1級を所得した息子は希望通りに四社の
商社が内定して、その中から現在の三菱商事への就職となった。
しかし...人生はそんなに順風には行かないので...
東京に行った頃に道を外れてしまい、黒歴史を作ってしまったが
それとまた人生においては正負の法則という事でもあるのか...
それから数年が経ち、息子も人生を立ち直し、自分が希望した
アメリカでの仕事を謳歌している様子であり、

今では毎週の子にアメリカでの生活や食事風景を
メールで送付してくれている...

そんな長男が渡米する前に小牧市に帰省し私と二人
で酒を呑み、たくさんのお話をした...

昨年に嫁いだ娘と共に長男が9才の時に私と親子で
たけな 20年の月日が流れた...

息子は「産まれた時から母さんの恋愛に振り回されてきて
子供の気持ちには関係ない所が大人の事情で人生を
振り回されて来た」と私に愚痴を述べた...

そんな長男も今年に30才を迎える年と来た...

昨年の父の日に私に酒を呑む時のグラスを贈呈してくれて
手紙には「お父さん、ありがとうごさいます」と書かれていた...
心だけ私の肩の荷が降りた気がした...

先月に節分星祭りの佐口上人様のお経が入ったおはたか
駒を越えて長男の住むアメリカに渡った...

到着するまでに2週間もかかった...

30才を迎えた息子に「これから誰にも振り回される事なく
自分の力で道を開いて行きたい」とお伝えした...

あらためて思ふ事があるが... 子供達と結ばれた深い
縁に感謝をする...

カレンダーも3月となります...

時代の移り変りの中で月日の流れも
超スピードの速さに思えます

そんな速さの中で当り前ですぎやくは
が健康で家族がみんな無事で
あればこそと思ってみます...

裕福なくらしよりも健康で災難なき
での日々が有り難さのよるこびと
存じます。 84才になります今のわ

たくしは歩く力が弱ってきています
たんばく質が摂れていないのか

食生活がととのっていないのかわかり

ませんが筋力が落ちてゆらばかりの

ようです。これではいけないと思ひ

正してみましても即席では何も整って
はゆくにはないことと試してみます 何事も
若い頃よりの心かけがなければと落ち込み
ます 若い頃の日記に若いなんて恐く
ないと大きな字で書いてあります... とんでと
ないこの様です 老いてみなきやわからず
のこの様です...

先日も整形のリハビリの先生が継続の
成果を語ってみたいでしょうとおしやりの
です ハイ.そうですわえ...と笑ってききのが
すわたくしです 努力の証しを喜べた
ことなどはすかしながら何もありません...

継続は力と紙に大きな字で書いて机
の横に貼ってあっただけです 努力も実
れば何かと大きな力となり成果が見え
るのに今はむなしく笑って終りのようです

契力には欠けましたが歩いて来ましたが
人生の中で等しい法華經にご縁を
頂きまして法華經の学びが得られま
したことです「仏道を習うことは
自己を習うことと学びました 命を運ね
て参りました今に思います何にも勝る
有り難さのよろこびです

仏道の学びに終りなし 生かされて
生きてゆく道の中で学びが得られるか
得られないかでは大ちがいの様に自分
なりに思っています ぶり返りますとあるも
このると着るご守護のおかげさまであったと
と気がかされます ゆうにゆえすの有りが
たさの思いでござります 何るもなく良き
日の今日に大きな声で南無妙法蓮華經と
一心合掌に感動の涙が流れます...

合掌

心に潜む無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス)

日蓮宗新聞の人権を考えるを読んで自分も知らず知らず思い込んでいることがあるなあと思い文章にあげました。

<内容>

30年前、長男が生まれたとき、多くの人に「男の子で良かったですね」とお祝いの言葉をかけられた。

そして、この度、孫が生まれた。「男の子で良かったですね」と祝ってもらった。大変有難く嬉しいことなのだが、ふと思ったのは、もし、女の子だったら「女の子で良かったですね」と言われたのだろうかという疑問である。

もしかすると、お寺の後継ぎは男性という無意識のバイアス(思い込み)が影響しているからではなからうか。

アンコンシャス・バイアスとは、自分自身は気づいていない「ものの捉え方や歪みや偏り」のことで、例えば、高齢者にITは向いていない、保育士は女性、外国人は自己主張が強い、血液型で相手の性格を判断したり、お茶出しは女性がするものと決めつけるなど、先入観や思い込みによって形

成されている。

「普通は〇〇だよな」「それって常識でしょ」と口にしたことはないだろうか？

問題は、その間違った解釈や思い込み、先入観に気が付かずにまともに無意識に決めつけることで、否定的態度や言動となって相手を傷つけたり、不利益を被る人をつくることにある。

解消するには、自分自身の言動が適切なのか、なぜ自分はそう思うのか、自分のもつバイアスに気がつくことや、自分の盲点の癖を知っておくことも必要だ。

自分自身の思考を見つめた先に多面的なものを見方が広がり、ひいては自身の寛容さ、受容力を育てることに繋がる。相手を否定したり評価せず、その存在や意見をありのままに受け入れる習慣を身につけたい。

内容を読んで私のバイアスを見つめました。

私は生まれた時父から「何だ女か」と言われたそうです。女の子らしくしてほしいと言われ育ちましたが、私の心の奥には「女の子らしく」にとっても反抗心というものがありました。

たのびで男尊女卑の考え方が嫌でたまらなく、一時期
その頃の内容的の本をよく読んでいました。

嫁家という立場にたつた時も、「長男の嫁だからこうすべ
き、こはがまんする」と言われるも、反抗心があるので夫によく口ごたえしてました。

「女がするのではなく2人ですればいい。男の人がやらな
い意味がわからない。私はあなたと対等なパートナー
として生きていたい」といって、女だからこうすべきの
言動に怒りのスイッチが入っていました。

振りかえってみると、相手もそうですが自分もバイパスで決め
つけて相手を傷つけていた。

自分の我だけで男、女それぞれにしかできない役割
を理解せず、対等を望んでいた自分がいたことを、
反省しつつも、まだまだ世の中の男尊女卑に怒りの
スイッチが入りそうになるも、文章の中にあつた、自分は
そう思うのか自分のバイパスに気がくように内省する
ことを心がけるようにし自身の寛容さ、受容力を
身につけていっています。

～ 感謝：父の愛へ～

実家の母が施設に入り三年がたちます。脳梗塞で左麻痺になり、自宅での生活は難しく止むを得ず施設に入所しました。思いの他母は「ここはえーよ!!」と大喜びでした。多分、弟も仕事で夜勤、宿直もあり、私も仕事と生活多忙で実家の母に会いに行く時間がありませんでした。デイサービスではいつもトラブルメーカーの母でしたが、施設では、「いつも誰かがいてくれる」、この安心感が母の心を穏やかにしてくいた様です。

施設にコロナウイルスが蔓延して、2ヶ月ぶりに面会しました。なんか「娘だ...」とわかった様でしたが、「私の名前わかる?」と聞くと「えーわからへん。なんて言うや、た?」と返答がありました。初めは私をかからせている?と思いました。あー認知症が進行したのかとわかりました。

それはいつも再会時に、「お上人さんにお父ちゃんのお経を上げてもらって!」、「お墓に行、てお花やお酒をお供えして来て!」、「何かお父ちゃんの好きな物 お供えしてなー。」と繰り返して頼む母でしたが、今年父の23回忌がある事を伝え

ると”そーなん、と一言。わからないのかと思うと心が空しくなりました。しかし現実を受け取る事が大事。

母に少しずつ父の思い出話をすると、少しずつ思い出した部分の話には、まるで昨日の出来事のように話して来ました。

顔の表情もにこやかになり「面会に来て良かった。お父ちゃんも安心出来たかな!?」と思いました。

弟と相談して父の23回忌法要は寺院でさせて頂く事にしました。寺院には父のお位牌もあります。父の好きな飲食物をお供えさせて頂きたいと思います。

23年の時が経ちましたが、今でも父の声、匂い、歩き方全てが鮮明に思い出されます。私は出来の悪い娘でしたが、父に「あなただの娘で本当に良かった!」とでも愛してくれた。今なお愛されていると日々感じています。」のメッセージを伝え御題目を唱えています。

※ 3月20日は春季彼岸会です。

御先祖様、亡き人に御供養致しましょう。

< 3月行事予定 >

- 3月13日(木) 10:00~ 宗祖日蓮大聖人報恩会
鬼子母尊神) 祈禱会
七面大明神
- 3月20日(木) 13:00~ 春季彼岸中日法要会

< 3月住職の予定 >

寺院にと法務

参拝の時は電話して下さい。

< 3月の予定 >

3月6日(木)	各々の時間で	清掃準備
?	↓	↓
12日(水)		
13日(木)	法要後	片付け準備
14日(金)	各々の時間で	清掃準備
?	↓	↓
19日(水)		